

広島都市圏

# 困難でも体動かす喜び

## 団体設立10年 登録者7倍に



ボランティアの介助を受け、台車で凸凹の板の上を通る子ども

身体と知的両方に重い障害の子支援

身体と知的の両方に重い障害のある子どもが、今年10周年を迎える「なま」が、毎月1回、専門家が付き添

う無料の教室を開き、利用登録者は当初の7倍の約40人に増加した。学校や病院と自宅の往復になりがちな子どもが、体を動かす貴重な場となっている。

同区光町2丁目の市中心障害者福祉センターで3月25日にあった約1時間半の教室には、県内の特別支援学校の小学、中学部などに通う8人が参加。自力で体を動かすことが難しい子が大半で、支援学校教諭や理学療法士、保育士たち約20人が介助した。

子どもは、台車に座り凸凹の板の上を通り振動を体感。音楽に合わせて手足を動かした。だっこされてトラポンポンで跳ねたりした。8年間通う鈴木大晴さん(13)は安佐南区の母ゆかりさん(39)は「息子が楽しめる数少ない場でうれしそう。体力も付いた」とほほ笑む。

2007年4月、重度障害のある子に運動の場を提供しようと設立。代表で障害者スポーツに詳しい広島文化学園大の加地信幸准教授(45)は「車いすから離れ、良い姿勢で座ることやスポーツとなり発達を促すことにつながる」と説明する。

東広島市で教室を始め、当初の登録は6人。独自メニューが好評で

保護者から問い合わせが増え、11年11月、同区に移した。現在、広島、福山、庄原市などの3〜18歳の約40人が登録している。加地代表は「広く知ってもらいたい」と話す。

参加は傷害保険料200円が必要。加地准教授の研究室☎082(884)1284。(渡部八揮)